

事業名 通常砂防事業^{やま다가わ}山田川
「水辺の楽校」

地域住民、学校関係者、行政等が協力して計画段階から整備後の「川の活用」について協議を重ね、工事施工に反映させた結果、地域住民の憩いの場、小学校の自然学習の場となるなど、盛んな利用がなされ、「地域の川づくり」が達成された、公民協働型で評価の高い事業

受賞機関 兵庫県北播磨県民局県土整備部
社土木事務所
兵庫県県土整備部土木局砂防課
事業実施期間 平成元年度～平成12年5月15日
事業費 2,256百万円

事業等の特徴

草刈りへの自治会の参加、小学校の総合学習のフィールドとしての活用等が行なわれている。

事業の概要と利用者等の評価

○事業の概要

全体延長5,926.8mの流路工整備を3期に分けて行い、特に下流工区の整備は小学校に隣接する600mの区間を「水辺の楽校」とし、住民参加型事業として行った。

○事業の特色

- ・治水砂防上、必要な断面は確保しつつ、用地の余裕のある箇所の水裏では緩傾斜の土羽構造とするなど、極力人々が近づける構造を心がけ、親水性の創出に努めた。
- ・下流工区での住民、学校関係者と県、市の整備計画策定の間ではあえて最初から行政側の計画を示さず、地形測量した平面図を基にその場でのアイデアを図面に示し、イメージ図に表すなどして、具体化し、時間をかけて公民協働の計画を作り上げた。
- ・砂礫質の河川であったため、水流の乏しい河川であったが、整備の際、河床に粘土を張るなど工法上の工夫を施して、水辺環境の創出を図った。
- ・国土交通省が提唱した、市町村からの要望に基づく事業の1つである「水辺の楽校」を取り入れ、公民協働の整備計画策定を行い、多自然型、住民参加型事業として取り組んだ結果、地域に密着したプロジェクトに発展した。

○事業のプロセス



完成

- ・圃場整備区域内であり用地の制限のあった上流工区の「二面張工法」、中流工区で試みた「多



地域住民の憩いの場

自然型、親水性重視工法」の対比が、川への住民意識を向上させることとなり、下流工区の住民参加の計画作りへの布石となった。

- ・下流工区では、地域住民、学校関係者、NPO、行政等が協力して整備後の「川の活用」を協議し、施工に反映させた。

○施設面の評価

- ・整備前は河道内に雑草やヨシが茂り水面が見えず、人も近づきにくい状況であったが、整備後は地域住民の散策の場や子供たちの遊びの場となっている。
- ・近接する小学校の生活科、総合学習の一環として山田川をフィールドとした体験学習がカリキュラムとして位置づけされている。
- ・瀬や淵の再生、創出、深目地の護岸構造など「すきま」の多い整備を心がけた結果、生態調査での生物の個体数も工事による影響から比較的早く回復している。
- ・下流工区での計画段階からの住民参加により、地域の川への意識がさらに高まり、山田川全体において、草刈りやゴミ収集など維持管理面においても住民と行政が協力して行うなど「地域の川づくり」が達成された。

審査委員会委員の意見等

- ・参画型で計画された「水辺の楽校」プロジェクトである。水辺の楽校として特に親水性の高い空間とそうでないところとの区別、利活用のされ方などが先進的であり、興味深い。小学校における総合学習の成果などの紹介があればさらによかった。